

風花の夜

12p

福田栄一

9p

私は自分の人生に自分をする狂言廻しを、
 つくづくなけなひ思ひで見まわしてゐた。
 大鹿車が死んだところから、或る夜、私は
 新宿の裏通りを一人を歩いてゐた。
 最後にあつたのは病院であるが、一度大
 先生の病室が重宝のたを知られ、それ